

(題字は初代学長 山田守英氏)

第 161 号

平成 27 年 12 月 18 日

編集 旭川医科大学
発行 教務部学生支援課



「桜岡の休日」

(写真撮影:医学科第1学年 三浦 子路)

教授就任のご挨拶……看護学講座 伊藤 幸子…… 2	第62回北海道地区大学体育大会 結果報告……………14
教授就任のご挨拶……看護学講座 長谷川博亮…… 3	学内体育大会が開催されました……………16
教授就任のご挨拶……麻醉・蘇生学講座 国沢 卓之…… 4	課外活動物品の購入補助を行いました……………16
スタンフォード大学に留学して	卒業生の動向(医 学 科)……………17
医学科第5学年 鈴木 詩織…………… 5	卒業生の動向(看護学科)……………18
学生海外留学助成制度を利用して	冬季休業期間中の事故防止について……………19
医学科第4学年 佐々木千恵…………… 6	学生証再交付の有料化について……………20
マヒドン大学研修プログラムに参加して	落とし物について……………20
医学科第3学年 館洞慎之介…………… 7	スキー等の貸出について……………21
外国人留学生交流事業を実施しました…………… 8	今後のスケジュール……………21
解剖体慰霊式を執り行いました……………10	教員の異動……………22
医学科第2年次後期編入学生入学式……………11	第161号表紙 ……………22
学生表彰式……………12	



教授就任のご挨拶

看護学講座 教授 伊藤 幸子

平成27年4月1日付けをもちまして、看護学
科母性看護学・助産学領域担当の教授を拝命い
たしました。至極、光栄なことと存じます。浅
学非力ながら職責を果たせるよう努力して参り
ます。どうぞよろしく願い申し上げます。

自己紹介をさせていただきますと、私は道北
の「絵本の里」の町で生まれ、高校卒業までそ
こで過ごした道産子です。その後、東京女子医
科大学看護短期大学を卒業し、そのまま助産専
攻科に進みました。この学校は、「女性の社会的
地位を向上せしめん」と創設された医科大学に
、「伝統的な看護師養成所方式からの脱却」
を目指して併設されました。昭和44年の開設当
時より、「看護以外のことに目を向ける時間が
必要」との考えから、週休二日制のカリキュラ
ムで、「自由と創造」が気風の学校でした。

専攻科終了後は、女子医大病院の産科病棟に
勤務し、I型糖尿病や先天性心疾患術後のキャ
リーオーバーなど合併症をもつ妊産婦が多い病
院で、臨床経験を積みました。

旭川医科大学病院にはバブル期が来る頃、就
職しました。産科・婦人科が混在する病棟で、
本学卒業の医師達がI回生を中心に闊達に活躍
しており、そのような中で、産科のみならず、
極小未熟児とその家族の支援、婦人科癌の術後
や化学療法を受ける女性の看護、また新たに始
まった生殖補助医療を受ける方のケアを体験し
ました。

私が就職した年には、隣接する北海道立看護
専門学校の助産婦科（当時）が開設され、その
I回生の分娩介助実習が本学病院で始まり、お
おらかな心と繊細且つ確実な技術を持つ先輩助
産師とともに、学生の指導に当たりました。

この頃に出会った方達との体験は、私の財産
であり血肉となっていると実感しています。

このような臨床での経験は、何者にも代え難
いものですが、ある日、私が出勤すると病棟の
ホールで「(本人曰く)待ち伏せしていた」故
野村紀子教授から、本学看護学科へお誘いを受
け、病院を退職いたしました。その後、北里大
学大学院看護学研究科を経て、平成10年から
看護学科に着任いたしました。

野村先生は本学看護学科設立にご尽力される
と同時に、母性看護学・助産学領域の初代教授
で、精力的にお仕事されておりました。ある年に、
領域に野村先生と私だけとなり、母性看護実習、
助産の講義・演習・実習のために、「教授兼助
手2×2体制」と野村先生が名付け、講義や実
習のみならず、資料作成まで二人で分担した思
い出があります。

現在も2年生から4年生と、3学年にわたっ
て母性看護学と助産学のそれぞれの講義・演
習・実習があり、この4月以来走り続けており
ます。しかし、一緒に4月から領域を担当して
いる大上講師、清水助教の力強いサポートを得
て、さらに産婦人科千石教授を始めとして、医
学科の先生達に講義を担当していただくことが
できたことは、本当に幸甚でございました。ま
た、病院看護部、周産母子センターのナース、
ドクターの協力も大きく、さらに本学科の卒業
生が、学生の臨地実習指導をしてくださるよ
うになり、これもまた「リプロダクション」であ
ると、感慨深いものがあります。

これからも皆様のお力をお借りしながら、母
性看護・助産学のおもしろさを学生に伝え、リ
プロダクティブ・ヘルスにかかわる看護を構築
していきたいと考えています。



教授就任のご挨拶

看護学講座 教授 長谷川 博 亮

この度、平成27年7月1日付をもちまして、看護学講座精神看護学領域の教授を拝命いたしました長谷川博亮です。紙面をお借りして皆様にご挨拶を申し上げます。私は本学大学院医学系研究科修士課程在学中、大学院生室の窓から望む大雪山連邦の美しい景色に支えられながら看護研究を進めておりました。その後、青森中央短期大学看護学科専任講師、名寄市立大学保健福祉学部看護学科講師、准教授を経て、再び旭川医科大学に着任できましたことを大変光栄に感じております。同時に、今は研究室の山並みを見ながら教育・研究に対する大きな責務と使命感を感じ、改めて身の引き締まる思いがいたします。本年3月に退任された作宮洋子前教授をはじめとした、名だたる先輩先生によって築かれた伝統を汚すことなく、新しい活力を大学に与えられるよう精励する所存でございます。そこで就任にあたりまして私の抱負を述べさせていただきます。と思います。

第1に、看護教育においては、精神看護の発展のため、次世代を担う学生を一人でも多く輩出するよう、効果的な教育環境づくりに尽力したいと考えております。

私は20数年前に精神科看護師をしていましたが、精神医療を取り巻く状況は、近年において大きく変化しております。精神看護は看護技術がない領域と誤解されていた時代もありましたが、精神障がい者の地域移行支援及び地域定着支援が課題となっている現在では、精神看護は非常に高度な専門性と多職種連携が求められます。その中で看護の役割は大きく、我々が精神看護を論理的に教授し、学生の主体的関心を高めなければなりません。

私が看護教育に関心を抱いたのは、臨床指導者をしていた時の看護学生との出会いでした。学生の一人ひとりが対象者のもっている可能性を発見し、それを信じて積極的に向き合おうとしていました。毎回のように学生から熱意を感じた私は、教育は精神看護を変革する大きな力になると確信をもったのです。ここ5年で、精神看護のゼミナール希望学生が着実に増え、新

卒で精神科に就職した学生も20名近くおります。現在も精神科病院を中心とする第一線で活躍しており、非常に嬉しく思います。このような学生を増やしていくには、講義の工夫や臨地実習の環境づくりが欠かせません。また、精神看護の複雑で見えにくい現象を明らかにする研究手法も教授できなければなりません。そのために、私自身が高度な専門知識を獲得することに加えて、国内外の学会で積極的に業績を重ねる努力をしていこうと考えております。

第2に、本学の豊富な環境・教育資源を活用し、様々な専門分野と協働しながら、実践研究を積極的に推進していこうと考えております。実践研究の魅力は、対象に多くの職域が協働しながら取り組むことで、アウトカムが対象の変容以外に、共同研究者の援助の質が高まり、日々の業務に反映できるところにあります。多くの専門職が成長し合いながら医療・福祉・教育を発展させることを目標に、地域の専門職間が連携できるような“つなぎ”としての存在にもなれるような実践活動をしたいと考えております。

現在、自殺予防対策でいくつかの市町村にかかわっています。今後の具体的な研究の方向性として、これまで取り組んできた自殺予防の実践を深化させ、北海道北部の市町村について自殺の要因となる特性の現状分析をその地域の専門職と共に行い、さらに、自殺予防の地域間連携の可能性を明らかにしていきたいと考えております。世界的にみると日本は自殺死亡率が高い国のひとつです。そのため、課題も多いですが、自殺予防の先進的な研究成果を発信できる立場であります。このような努力の必要性も感じているところです。

まずは私自身が仕事に慣れ、自分の置かれた現状を把握できるようにしたいと思います。そして、微力ながらも旭川医科大学の発展並びに地域に貢献していきたいと考えております。今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



教授就任のご挨拶

麻醉・蘇生学講座 教授 国 沢 卓 之

平成27年10月15日付けで麻醉・蘇生学講座教授を拝命致しました、国沢卓之（たかゆき）でございます。以後、宜しくお願い申し上げます。私は、旭川出身の旭川育ちで、市内の小学・中学・高校を卒業し、平成3年に本学に入学致しました。学生時代は、中学生から続けていたバスケットボール部に入部し、楽しい学生時代を過ごして参りました。

平成9年の本学卒業時は、全身管理・救急医療・心疾患・小児に携わりたく思っており、本学循環器内科・小児科、麻醉科としては札幌医科大学（札幌医）・東京女子医科大学（女子医）を含めた5つの進路で悩みましたが、最終的に本学、麻醉・蘇生学講座を入局先として選択しました。本講座で全身管理を学び、女子医で心臓麻醉・小児心臓麻醉を学び、札幌医から赴任された前任の岩崎名誉教授のもと研究に従事することが可能で有り、今思えば、全ての希望が叶えられたありがたい選択でございました。医師四年目で国内留学として女子医に赴任し、スタッフや研究生期間を含めると4年半にもわたり、最先端の心臓麻醉を実践し、経食道心エコー検査（Transesophageal echocardiography：TEE）に従事しておりました。その後、一旦帰旭後、ニューヨークのマイモニデス・メディカル・センターにて、米国の心臓麻醉とTEEに関する最新・最先端の知識を習得して参りました。

心臓麻醉・TEEを臨床の柱と致しますと、静脈麻醉薬の薬物動態と薬力学を研究の中心として参りました。投与された薬物の血漿濃度を予測し、効果部位濃度（麻醉薬では、脳内濃度に近い値）を算出したり、その為に必要なパラメータを決定したりする研究を行って参りました。その知識を応用して、患者様が覚醒するまでの時間を正確に予測し、痛みや生体反応が生

じない麻醉薬の濃度を保ち、ひいては、起きたまま手術が可能となる状況（覚醒下手術）を、容易に達成することを可能としました。この技術は本学でも実践し、現在では、脳神経外科領域・耳鼻咽喉科領域・整形外科領域・血管外科領域で、頻回に施行させていただいております。

周術期のTEEの目的は、①循環モニタとしての活用、②術式変更・追加などに寄与する診断としての活用、③危険を察知し患者様の安全を担保するためのリスクマネージメントとしての活用の三つがございます。この技術の応用は、患者様のみならず、医療従事者が受けられる恩恵も多いため、国内に普及することを願って、日々の臨床・研究・教育を行っております。私が昨年取得した米国の周術期TEE指導医資格は、アジア在住医師としては、まだ、私しか保有しておりませんため、書籍・解説の執筆、TEEデモンストレーション、講演、国内資格試験実施などを継続し、国内のさらなる普及に尽力させて頂きたく思っております。

また、手術室の麻醉は安全が第一です。患者様の安全は、他科医師・メディカルスタッフへの安心に繋がり、良好な手術環境への近道と思えます。今まで行ってきた臨床・研究を実践し、学生・研修医・若手医師に伝え、実践頂き、さらなる、安全と安心を獲得することで、最終的には本学・本院の発展に微力ながら寄与できればと願っております。さらに、麻醉領域では、本学から最先端の知識や技術を発信し続けていきたいと思っております。臨床医として医療の実践を行う機会が多かった勤務内容でしたが、今回新しい立場となり、様々な知見を増やし、尽力させていただきたく思っておりますので、皆様、今後ともご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

スタンフォード大学に留学して

医学科第5学年 鈴木詩織



2015年8月、アメリカのVIA(Volunteer In Asia)のMED(Medical Exploring and Discovery)プログラムに参加し、3週間スタンフォード大学で医学と英語の留学を経験

しました。

過去に同プログラムに参加された先輩のお話を聞いたのがきっかけで、このプログラムを知りました。様々な留学プログラムの中で、MEDは1.英語も医学も学べる、2.プログラム内容が充実している、3.安全性が高い、という点が魅力的だと感じ選びました。

本プログラムの参加者は日本・中国・台湾の医学生で、医学英語の授業、講演会、ワークショップ、グループ討論を通して、アメリカとアジアの国々の文化・医療制度の違いを学ぶのが目的です。中でも印象的だったのは、LGBTQやアメリカの移植医療システムについての講演、ゲイクリニックの訪問などで、とても貴重な経験となりました。UCSF(University of

California San Francisco)の病院実習では、実際にカンファレンスや回診・抄読会に参加し、日本の臨床実習との違いを体感しました。また、スタンフォード大学の寮での生活、サンフランシスコ観光・シリコンバレー見学などを経て、素敵なキャンパスライフや異文化を体感することもできました。意欲的な参加者やスタンフォードの学生、アメリカで働く日本人医師から刺激を受け、毎日新しい発見ばかりでとても充実していました。たったの3週間でしたが、本当に多くのことを学ぶことができ、英語力の向上はもちろん、人間としても成長できた夏休みでした。

たくさんの人に支えられて、この留学を実現することができました。家族をはじめ、申込みの自己推薦文を添削してくださった先生、常に励ましてくれた友人には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

この留学をゴールではなく新たなスタート地点とし、今後の活動に活かしていきたいと思います。



▲講演者Dr. Chacko(左) Dr.Peter(右)と



▲スタンフォード大学の医学生と



◀UCSF Parnassusにて▶



学生海外留学助成制度を利用して

医学科第4学年 佐々木 千 恵



今回こちらの制度を利用して、夏休みにフィリピンのセブ島へ3週間語学留学させていただきました。留学先としてフィリピンを選んだ決め手は、一对一の個人レッスンが

主流となっており、英語を使う時間が多くとれることでした。現地では初日のレベルチェックテストに始まり、週5日、朝8時から夕方5時まで、グルプレッスン2時間と個人レッスン6時間の計8時間のレッスンを受講しました。

個人レッスンのうち2時間は医療英語というテーマでした。英語で書かれた症状から診断を考へることや、患者さんに話すつもりで症状や治療法についてわかりやすく説明することは、難しいながらも新鮮で毎回楽しみでした。また、どの授業においても、私の言いたいことを汲み取って発音や表現の間違いを訂正し、その場で正しい文章を教えていただいたことが何より勉強になりました。フィリピン人の先生方の明るい雰囲気のおかげで、気後れせず英語を話してみることができ、間違いなくこれまでの人生で一番たくさんの英語を使った期間となりました。授業以外では、セブ島に住む人々の足となっているジプニーという乗り合いトラックを使



って移動したり、道端で売っているバロットという孵化直前のアヒルのゆで卵を食べたり、休日には近くの島へ観光に行ったりと、3週間という短い時間ながらフィリピンらしさも体験できました。

この期間での英語力の進歩はわずかなものかもしれませんが、拙いながらも英語でのコミュニケーションを楽しめたこと、先生方や周りの友人たちから刺激を受け、英語を使いこなせるようになりたいというモチベーションが高まったことは大きな収穫でした。この気持ちを忘れることなく、学習を継続していきたいと思ひます。

最後になりますが、このような機会をご支援いただきました皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



▲卒業式にて



マヒドン大学研修プログラムに参加して

医学科第3学年 舘 洞 慎之介



私は、今年の8月、タイのマヒドン大学にて行われました「Elective Program in Tropical Medicine」に参加させていただきました。本プログラムは、ほぼ毎年、春季と夏季に開催されており、今回は夏季休業と少し授業を休ませて頂くことで参加させていただきました。

このプログラムは全部で4週間あり、前半2週間と後半2週間に分かれております。前半2週間においては主に、首都バンコクにある大学キャンパスにて、熱帯医学分野の座学と顕微鏡を用いた実習、病院等施設の見学、が行われました。後半2週間はナコンサワンという地方の病院にて見学実習をさせていただきました。

座学においては、主にマラリアやデング熱、HIV等といった寄生虫症や感染症について学びました。顕微鏡実習では、様々な寄生虫や虫卵の標本を観察しましたが、こちらは日本で行った寄生虫学実習に近いものがありました。病院施設等の見学では、バンコクの様々な施設に見

学に行ってきました。大学付属病院、国立の大病院とその病院附属の寄生虫博物館、ハンセン病専門の病院、HIV専門のクリニック等、様々なタイプの施設がありました。どの施設でも熱帯特有の病気からは切っても切れない関係にあるようで、熱帯医学を学ぶという意義が十分に満たされたように思います。地方病院での見学実習では、その地域の中核病院に通い、そこで担当の先生や、研修医の先生、医学生から英語にてそれぞれの患者さんの病状について説明していただきました。

プログラムはすべて英語にて行われましたが、ほぼ全ての実習で、「あなたならばこの病気はどのように判断するか」等のディスカッションが行われました。プログラム参加者の方たちはみな、英語のレベルだけでなく医学知識のレベルも高く、学習意欲がさらに刺激されました。

最後になりますが、このような機会を与えてくださいました旭川医科大学、ならびに関係者の方々には大変感謝しております。この場をお借りして深く御礼申し上げます。



◀ 病院の見学



◀ ハンセン病専門施設にて

顕微鏡実習▶



▶ 症例に関するディスカッション



平成27年度 外国人留学生交流事業を実施しました

平成27年度の外国人留学生交流事業が、7月31日（金）・8月1日（土）の2日間の日程で、本学に留学している学生と研究者として在籍する外国人及び関係職員の7カ国、計12名が参加して実施されました。

この事業は旭川市内近郊だけではなく、北海道内の名所を外国人留学生及び帯同されている家族の方々に観てもらい、北海道の良さを再認識してもらうこととともに、様々な国から来日されている留学生同士の交流及び外国人留学生と職員との交流を図ることを目的としたものです。

当日は、札幌市の野幌森林公園内にある北海道博物館を見学しました。展示室に入ってすぐにある、マンモスゾウとナウマンゾウの骨格標本の迫力に驚き、それぞれに意見交換をしていた姿が印象的でした。北海道の歴史に興味を持ち、集合時間を忘れてしまうほど熱心に見学していました。続いて、札幌芸術の森美術館にて、七宝焼きのキーホルダー作りを行いました。

絵柄に工夫を凝らし、真剣な様子で取り組んでいました。会話をしながら楽しく制作することができ、完成した後は、キーホルダーを互いに見せ合い盛り上がりました。

夕方に宿泊施設である定山溪万世閣ホテルミリオースネに到着し、会話を楽しみながらおいしい夕食をいただきました。夕食の後にはカラオケを交えた交流会が実施され、普段は話をする機会の少ない留学生と教職員とも、とても和やかな雰囲気の中で情報・意見交換が行われました。

翌日は、午前中に札幌市青少年科学館とサンピアザ水族館を見学しました。科学館ではプラネタリウムを鑑賞し、映し出された綺麗な夜空に感動しました。水族館では、魚の写真を撮ったり、ドクターフィッシュに手を掃除してもらったりと、それぞれ自由に楽しみました。昼食をとり、午後4時に本学に到着し、外国人留学生交流事業が無事終了しました。



◀ 七宝焼でキーホルダー作り



平成27年度解剖体慰霊式を執り行いました

9月16日（水）午後1時30分から本学体育館において、御遺族と御来賓及び教職員・学生合せて約320名が参列し、平成27年度旭川医科大学解剖体慰霊式を執り行いました。

慰霊式においては、本学学生等の教育及び学術研究用に尊いご遺体を提供され、医学発展の礎石となられた方々の計215霊の御霊に対して、ご冥福をお祈りするために黙とうが捧げられ、引き続き吉田学長から追悼の辞が述べられました。

また、学生代表の医学科第3学年 高野琢磨さんによる追悼の辞では、『私達医学生には解剖学実習で学んだ事柄を正しく活用していく責任がある。』という事をしっかりと胸に刻み、故人そしてご遺族の皆様への期待に応えられる医師となるため努力を重ねていきたい』と誓いました。

最後に、御遺族と御来賓の方々並びに教職員、学生の代表からの献花が捧げられ、亡くなられた方々の御遺徳を偲びご冥福を祈念しました。

追悼の辞

学 長 吉 田 晃 敏
学生代表 医学科第3学年 高野 琢磨

献 花

学 長 吉 田 晃 敏
学生代表 医学科第3学年 高野 琢磨
医学科第3学年 田中 真緒
看護学科第2学年 鈴木 拓真
看護学科第2学年 堀川ふみえ

謝 辞

解剖学講座教授 吉 田 成 孝



▲学長による追悼の辞



◀ 学生代表による追悼の辞



▲献花

平成27年度 医学科第2年次後期編入学生入学式

平成27年度医学科第2年次後期編入学生入学式が平成27年10月1日（木）に事務局第一会議室において執り行われました。式では、吉田学長から編入学生に対して、「編入学は決して遠回りではありません。皆さんの多様で豊富な社会経験や知識を生かして、周囲の学生に大きな刺激を与えつつ、楽しく充実した二度目の学生生活を送ってください。」とエールが送られました。

入学式に引き続き、学年担当教員や基礎医学教員等によるガイダンスが行われ、編入学生は少し緊張した面持ちながらも熱心に耳を傾けていました。午後からは医学科第2学年の学生との顔合わせがあり、編入学生一人一人から経歴等の自己紹介が行われると、皆から「ワーッ！」という感嘆の声があがりました。その後は、早速、形態学実習の授業がスタートし、編入学生10名は旭川医科大学生としての第一歩を踏み出しました。



学生表彰式

平成27年11月10日（火）、本学第一会議室において、課外活動、社会活動、学術研究活動で特に顕著な成果をあげた学生及び学生団体に対する学生表彰が行われました。

表彰式は、役員及び顧問教員の列席のもと、吉田学長から7団体、個人7名に対し表彰状の授与と記念品の贈呈が行われ、被表彰者の栄誉を称えるとともに、更なる活躍のための激励の言葉が贈られました。受賞者の一覧は以下のとおりです。

=課外活動による表彰=

団体名・氏名	大会等名	成績
硬式庭球部女子	第58回東日本医科学生総合体育大会	女子団体戦 3位
男子バレーボール部	第58回東日本医科学生総合体育大会	優勝 (3年連続)
ソフトテニス部男子	第58回東日本医科学生総合体育大会	準優勝
男子ハンドボール部	第58回東日本医科学生総合体育大会	準優勝
柔道部男子	第58回東日本医科学生総合体育大会	男子団体戦 優勝
医学科第4学年 片寄 駿 (バドミントン部)	第58回東日本医科学生総合体育大会 バドミントン男子個人ダブルス	優勝
医学科第3学年 佐々木 悠人 (バドミントン部)	第58回東日本医科学生総合体育大会 バドミントン男子個人ダブルス	優勝
医学科第4学年 飯田 敏史 (柔道部)	第58回東日本医科学生総合体育大会 柔道男子個人戦66kg級	優勝
医学科第3学年 伊佐 秀貴 (剣道部)	第58回東日本医科学生総合体育大会 剣道男子個人戦	3位
医学科第4学年 高村 貴子 (競技スキー部)	第57回東日本医科学生総合体育大会 クロスカントリースキー 5km・3km	優勝
	第5回カムイの杜トレイルラン40km女子	優勝
	富良野トレイルラン&アドベンチャー2015 勇者コース(15km)	1位
	第21回ピンネシリ登山マラソン大会 山頂コース(42km)	優勝
	第3回大雪山ウルトラトレイル 40km女子	優勝
	OSJ山中温泉トレイルレース 71km	優勝
	第1回十勝岳トレイル 25km 女子	優勝
	2015XTERRAジャパン・チャンピオンシップ 北海道大会 トレイルラン30km女子	優勝

団体名・氏名	大会等名	成績
医学科第3学年 澁谷 匠 (陸上競技部)	第67回北海道学生陸上競技対校選手権大会 男子円盤投	優勝
	第58回東日本医科学生総合体育大会 男子円盤投	優勝
	第27回北日本医科学生総合体育大会 男子円盤投	優勝
	第62回北海道地区大学体育大会 男子円盤投	優勝

＝課外活動及び社会活動による表彰＝

団体名	大会等名	成績
放送研究会	JFN学生ラジオCMコンテスト2015	北海道・東北 ブロック賞

＝社会活動による表彰＝

氏名	活動内容
医学科第4学年 渋谷 夏姫	道内中学校・高校における性教育・生命教育に係る出前講座を行うほか、地域情報誌の学生記者活動を行うなど地域活性化への積極的な活動を続けている。

＝学術研究活動による表彰＝

団体名	学術集会名	成績
漢方研究会	第66回日本東洋医学会学術総会 学生発表の部	会頭賞



第62回北海道地区大学体育大会 結果報告

7月4日（土）から7月19日（日）の日程で第62回（平成27年度）北海道地区大学体育大会が開催され、旭川市をはじめ、札幌市、岩見沢市、小樽市、室蘭市及び留辺蘂町の7会場において競技が行われました。今回は、サッカー、柔道、準硬式野球の競技が参加大学数不足のため開催中止となり、8種目で熱戦が繰り広げられました。

本学は昨年度に引き続き、バレーボールの分担大学として、7月18日（土）・19日（日）旭川市総合体育館においてバレーボール大会を開催しました。本学男子バレーボール部、女子バレーボール部の部員達は、前日の午後から準備を始め、大会当日の2日間も手際よく運営してくれました。旭川市総合体育館には、学生のご家族・友人も多く駆け付け、観客席から大きな応援をいただいたおかげで、男子バレーボール部が見事2年連続優勝を果たすことができました！

なお、来年度は本学が当番大学となり同大会を開催し、陸上競技、バスケットボール、バドミントン、柔道の4種目を本学が担当する予定です。各競技の大会準備、運営にあたっては、学生の皆様のご協力が不可欠ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

第62回（平成27年度）北海道地区大学体育大会 種目別上位成績表

	男 子			女 子		
	優勝	準優勝	第3位	優勝	準優勝	第3位
総合成績	北教大旭川	北教大岩見沢	小樽商大	北教大旭川	北海道大	旭川医科大
陸上競技	北教大岩見沢	北教大旭川	小樽商大			
硬式野球	旭 川 大	拓殖短大	苫小牧駒澤大 釧路公立大			
バスケット ボール	北教大岩見沢	北海道大	北教大旭川 旭川医科大	拓殖短大	北教大函館	北教大札幌 帯広畜産大
バレーボール	旭川医科大	北教大旭川	北見工大 北教大釧路	北教大旭川	北教大釧路	旭川医科大 武蔵短大
バドミントン	北教大旭川	室蘭工大	北教大札幌 北海道大	北教大旭川	北海道大	武蔵短大 北教大岩見沢
剣道	札幌医科大	小樽商大	苫小牧駒澤大	苫小牧駒澤大	旭川医科大	旭 川 大
弓道	北海道大	北見工大	帯広畜産大	北海道大	札幌医科大	室蘭工大
ハンドボール	北教大旭川	札幌医科大	小樽商大			



学内体育大会が開催されました

平成27年8月27日（木）に学生会主催の体育大会が開催されました。

お盆を過ぎた頃から旭川では一気に気温が下がる日が続き、開催日も曇り空の肌寒い一日でしたが、バスケットボール、バレーボール、ソフトボール、サッカーの4種目で熱戦が繰り広げられました。

日頃の部活動での活動とは一味違う体育大会を通して、学科、学年を超えた交流ができ、普段なかなか見られない学生達のはつらつとした笑顔が印象的でした。

また、競技終了後には、学生食堂において交流会が開催されました。



課外活動物品の購入補助を行いました

この度、課外活動に係る備品購入申請のあった17団体のうち、5団体（山岳部、雪艇倶楽部、陸上競技部、準硬式野球部、空手道部）に対し、備品購入の補助を行いました。

今回は、予算の都合もあり申請のあった全団体の要望に応えることはできませんでしたが、活動内容の充実、安全性の確保といった点を考慮し、武道場で使用するための競技用マットやカヌー用ヘルメットなどを購入しました。



卒業生の動向（医学科）

平成27年3月25日（水）に本学を卒業した医学科学生の進路状況は次のとおりです。

なお、個人情報保護法関連法律等の関係で氏名は掲載しておりません。

区 分		大学及び病院名等	平成26年度卒業生		
			男	女	計
進 学	道 内	旭川医科大学大学院博士課程	(1) (注)	0	0
	道外その他		0	0	0
	小 計			0	0
就 職	道 内	旭川医科大学病院	19	8	27
		北海道大学病院	0	3	3
		その他	31	9	40
		計	50	20	70
	道 外	筑波大学附属病院	1	1	2
		その他	20	2	22
		計	21	3	24
	小 計			71	23
未 定・その他			2	3	5
合 計			73	26	99
備 考 (注) 当該卒業生は初期臨床研修医として就職しているため、「就職」欄で計上している。					

上記以外の病院名

道 内 : 旭川医療センター、旭川厚生病院、旭川赤十字病院、市立旭川病院、
名寄市立病院、深川市立病院、滝川市立病院、砂川市立病院、岩見沢市立総合
病院、王子総合病院、日鋼記念病院、遠軽厚生病院、釧路労災病院、北海道医
療センター、札幌東徳洲会病院、手稲溪仁会病院、NTT東日本札幌病院、勤
医協中央病院

道 外 : 水戸協同病院、上尾中央総合病院、川口総合病院、横須賀共済病院、平塚共済
病院、荻窪病院、虎ノ門病院、松波総合病院、名古屋掖済会病院、NTT西日
本大阪病院、市立伊丹病院、市立貝塚病院、市立岸和田市民病院、東広島医療
センター、倉敷中央病院、福岡徳洲会病院、長崎県島原病院、中部徳洲会病院、
南部徳洲会病院

卒業生の動向（看護学科）

平成27年3月25日（水）に本学を卒業した看護学科学生の進路状況は次のとおりです。

なお、個人情報保護法関連法律等の関係で氏名は掲載しておりません。

区 分		大学及び病院名等	平成26年度卒業生			
			男	女	計	
進 学	道 内	道立旭川看護高等学院助産学科	0	1	1	
	道外その他		0	0	0	
	小 計		0	1	1	
就 職	道 内	旭川医科大学病院	1	29	30	
		北海道大学病院	0	2	2	
		札幌医科大学病院	1	0	1	
		その他	2	6	8	
		計	5	48	53	
	道 外	看護師	大学関係病院	0	5	5
		看護師	その他	0	8	8
		保健師		0	0	0
		助産師	上記以外の病院等	0	0	0
		計	0	13	13	
	小 計		5	61	66	
	未 定・その他			0	1	1
	合 計			5	63	68

上記以外の病院名

道 内 ：市立旭川病院、網走厚生病院、帯広厚生病院、北海道がんセンター、
手稲溪仁会病院、KKR札幌医療センター、天使病院
網走道立保健所、釧路道立保健所、利尻町、滝川市、帯広市、池田町、森町、
釧路市、森産科婦人科病院、帯広慶愛病院

道 外 ：横浜市立大学附属市民医療センター、東海大学医学部附属病院、北里大学病院、
JCHO仙台病院、上尾中央総合病院、新松戸中央総合病院、聖路加国際病院、
立川病院、東名厚木病院

冬季休業期間中の事故防止について

今年も残りわずか1か月。そろそろ忘年会シーズンがやってきます。

冬季休業中は、帰省や新年会など楽しみの多い時期ですが、外出する機会や飲酒をする機会が増えることから、事故等に巻き込まれやすい時期でもあります。学生の皆さんは、本学学生としての自覚を持ち、以下のことに注意し、有意義な年末年始を過ごしてください。

1. 交通事故について

凍結路面やわだちでのスリップ等、冬道の運転は危険がいっぱいです。路面状況が刻々と変化することを認識し、スピードを控え、安全運転を心がけましょう。

2. 飲酒運転の禁止

飲酒運転は悪質な犯罪であるとの認識をしっかりと持ち、二日酔い運転を含めた飲酒運転の根絶を図りましょう。飲酒した人の車に同乗したり、車を運転する可能性がある人への酒類の提供や車の提供も犯罪となります。



3. イッキ飲み・アルハラの禁止

未成年の飲酒やイッキ飲みの強要、意図的な酔いつぶしは、非常に危険な行為であることを認識し、絶対に行わないこと。

～アルハラの定義5項目～（イッキ飲み防止連絡協議会のページより）

① 飲酒の強要

上下関係・部の伝統・集団によるはやしたて・罰ゲームなどといった形で心理的な圧力をかけ、飲まざるをえない状況に追い込むこと。

② イッキ飲ませ

場を盛り上げるために、イッキ飲みや早飲み競争などをさせること。

③ 意図的な酔いつぶし

酔いつぶすことを意図して、飲み会を行うことで、傷害行為にもあたる。ひどいケースでは吐くための袋やバケツ、「つぶれ部屋」を用意していることもある。

④ 飲めない人への配慮を欠くこと

本人の体質や意向を無視して飲酒をすすめる、宴会に酒類以外の飲み物を用意しない、飲めないことをからかったり侮辱する、など。

⑤ 酔ったうえでの迷惑行為

酔ってからむこと、悪ふざけ、暴言・暴力、セクハラ、その他のひんしゆく行為。

4. 薬物乱用の禁止

昨今「危険ドラッグ」の乱用は大きな社会問題となっています。好奇心や誘惑から、薬物（ドラッグ）を買わない、使わない、かかわらないという強い意思を持ってください。

学生証再交付の有料化について

学生証の再交付については、これまで無料としてきましたが、紛失等による再交付枚数が年々増加してきていることや受益者負担の観点から、平成28年4月1日申請分より再交付に係る手数料を有料とし、実費相当額の1,000円を徴収することになりました。

なお、再交付を希望する時は、従来どおり学生支援課学生総務係において「学生証再交付願」を届け出てください。

手数料を必要とする場合

- ・紛失、盗難、カード破損
- ・顔写真の変更を希望するとき

手数料を必要としない場合

- ・磁気不良、IC不良
- ・改姓

☆ 悪用防止のため、紛失・盗難の場合は、最寄りの警察署・交番に届け出てください。

☆ スマートフォンやテレビなど、強い磁気を発する物に近づけたり、キャッシュカード等の他の磁気カードと一緒に保管したりすると磁気が壊れる場合がありますので、学生証の保管には気を付けてください。

落とし物について

学生支援課には毎日多くの落とし物が届きます。持ち主が判明したものは、学内メール等で連絡していますが、持ち主不明の場合は、学生支援課前の落とし物棚に陳列しています。

また、お財布や携帯電話といった貴重品は、学生総務係で保管していますので、お問い合わせください。



↑ 防寒具、傘、弁当箱、教科書、鍵、時計などなど持ち主が現れない落とし物たち……

持ち主が見つからなかった落とし物については、年度末に処分させていただきますので、今一度ご確認ください。

スキー等の貸出について

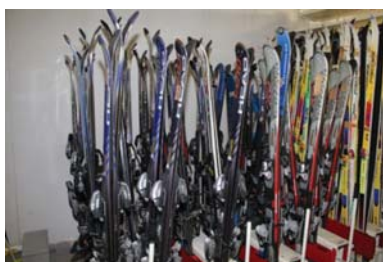
この冬はウインタースポーツに挑戦してみませんか？大学では、皆さんの課外活動のために必要な物品の貸出を行っています。

スキー、スキー靴、ストック、スノーボード等々を貸出していますので、借用を希望する方は月・水・金曜日の12時30分～13時00分（ただし、12月28日～1月5日を除きます。）の時間帯に管理室までお越しください。

これからスキーを始めようと考えている貴方、お待ちしております！



福利厚生施設1階 理髪室の隣です。
なお、借用期限は1週間です。



サイズも色々
あります！

今後のスケジュール

冬季休業

- 12月14日（月）～1月8日（金） 医学科第1・2学年、看護学科第2学年
- 12月14日（月）～1月1日（金） 医学科第3学年、看護学科第3・4学年
- 12月16日（水）～1月8日（金） 看護学科第1学年
- 12月17日（木）～1月4日（月） 医学科第4学年
- 12月29日（火）～1月1日（金） 医学科第5学年

- 1月5日（火） 医学科第4学年C B T試験
- 1月15日（金） 大学入試センター試験設営
- 1月16日（土）・17日（日） 大学入試センター試験
- 1月30日（土） 医学科第4学年O S C E試験
- 2月12日（金） 医学科第4学年 白衣式



教 員 の 異 動

平成27年8月1日	昇 任	医学部脳神経外科学講座	講 師	和 田 始
平成27年9月30日	辞 職	医学部外科学講座 (循環・呼吸・腫瘍病態外科学分野)	准教授	内 田 恒
平成27年9月30日	辞 職	病院眼科	講 師	高 宮 央
平成27年9月30日	辞 職	病院緩和ケア診療部	講 師	中 西 京 子
平成27年10月1日	昇 任	病院第一外科	講 師	古 屋 敦 宏
平成27年10月1日	昇 任	病院眼科	講 師	高 橋 淳 士
平成27年10月1日	昇 任	医学部看護学講座	講 師	大 上 育 子
平成27年10月15日	昇 任	医学部麻酔・蘇生学講座	教 授	国 沢 卓 之

第161号表紙

今月号の表紙の写真は、医学科第1学年の三浦子路さんが撮影した1枚。三浦さんが、桜岡で出会った馬たちの様子をたくさん提供してくれましたが、今回は、その中から1枚を選ばせていただきました。

学生支援課では、皆さんからの写真を募集しています。課外活動での様子、旅先での1枚など気軽に応募してください。ご提供いただける方は、学生支援課学生総務係までご連絡ください。

